IMail Server

クイック スタート

ソフトウェア バージョン 7

Ipswitch 社

本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。Ipswitch 社は本書の記載内容の正確さに関しては万全を期しておりますが、誤植や記載漏れに関しては一切の責任を負いません。また、Ipswitch 社は本書の記載情報を使用することによって発生した損害についても、一切の責任を負いません。本書で説明するソフトウェアは、パッケージの同梱されている「使用許諾契約書」の条件のもとで提供されます。

Copyright© 1995-2001 by Ipswitch, Inc. All rights reserved. IMail、IMail のロゴ、WhatsUp、WhatsUp のロゴ、WS_FTP、WS_FTP のロゴ、Ipswitch、Ipswitch のロゴはすべて Ipswitch 社の商標です。その他の製品または会社名は各社の商標または登録商標で、その所有権は各社のものです。

本書のいかなる部分も Ipswitch 社の書面による事前の明示的な同意なしに、複製、複写、検索システムに保存、または譲渡することはできません。

V7.0 日本語版印刷履歴

2001 年 9 月　　初版

目次

IMail Server とは 1
本書について 1
用語集 1
IMail Server に関するその他の情報 1
バージョン 7.0 での新機能 2
インターネット メール システムのコンポーネント 2
インストールの計画 4
ステップ 1: 必要な事柄 4
ステップ 2: サポートするユーザの人数 5
ステップ 3: メール サーバで使用する DNS 項目の作成 5
ステップ 4: ユーザ データベースの選択 6
ステップ 5: 提供したい電子メール サービス 8
ステップ 6: セキュリティ レベルとアクセス制御の決定 8
ステップ 7: メール ホストが 1 つの場合と複数の場合 10
IMail Server のインストール 11
ステップ 1: インストール手順の開始 11
ステップ 2: サーバの正式ホスト名の設定 11
ステップ 3: ユーザ データベースの選択 12
ステップ 4: インストールしたファイルやフォルダの場所を選択する 13
ステップ 5: セキュリティ オプションの設定 14
ステップ 6: 提供する IMail サービスの選択 15
ステップ 7: テスト ユーザの追加 15
ステップ 8: システムの再起動 15
IMail Server のインストールのテスト 16
ステップ 1: DNS 設定の確認 16
ステップ 2: IMail Server のインストールの確認 19
ステップ 3: ユーザ データベースの設定の確認 20
ステップ 4: テスト アカウントを使用したメールの送受信 21
ウィザードの使用 22
弊社の Web サイト 22
技術サポートを受けるには 22
パッチとアップグレードのダウンロード 22

用語集 23

索引 29

IMail Server

IMail Server はインターネット標準に準拠したメール サーバで、アクセスが非常に多い電子メール環境でも安定したサービスを提供することが可能です。IMail Server は、メールの送信、読み取り、および転送用にSMTP、POP3、IMAP4、およびWebインターフェースをサポートしています。

IMail Server は、現在発展しつつあるインターネットや社内イントラネットにおけるメッセージのやりとりに関する要件を満たすように設計された統合的な電子メール ソリューションです。IMail Server はインストールや管理が簡単なため、メール サーバ導入時の初期コストと運用管理コストの両方を大幅に削減することができます。IMail Server は使い勝手のよさを特長としており、生産性の向上に貢献します。また、専用のシステムや複雑な UNIX ベースのメール システムに代わる安定したメール システムを提供します。

本書（『**クイック スタート**』）では、IMail Server システムの計画、インストール、およびテストに関する手順について段階的に説明します。

本書の中で***太字斜体文字***で表記されている語句については、23 ページの「用語集」で説明されています。

IMail Server

- ユーザ登録、拡張構成、サービス オプション、メーリング リストなどの詳細については、『*IMail Server ユーザーズ ガイド*』で説明されています。
- Ipswitch 製品についてのさらに詳しい情報の参照、またはオンラインでの製品の購入には、弊社の Web サイト (*http://wwwcsoft.kgt.co.jp*) をご利用ください。

  技術サポート ページでは、よく尋ねられる質問（FAQ）や、最新の製品情報をご覧になることができます。

7.0

IMail Server バージョン 7.0 には、ユーザ インターフェースを拡張してパフォーマンスを向上させる新機能が搭載されています。新しい機能の詳細については、『*IMail Server ユーザーズ ガイド*』の第 1 章を参照してください。

バージョン 7.0 の主要な変更箇所を、以下に示します。

- **IMail Web カレンダー** — カレンダを使用して、スケジューリング、タスク管理、およびアポイントの設定を行うことができる新しい機能です。間近に迫ったイベントやアポイントについて注意を促すための通知をスケジュール設定することもできます。
- **IMail Web Messaging** — ログインしているユーザ数や送受信されているデータ量など、サーバに関する統計やサーバのアクティビティを管理者がリアルタイムで表示することができます。
- **IMail Administrator** — インターフェースが改良され、機密保護されたリモート接続経由で複数の IMail Server を管理することが可能になりました。

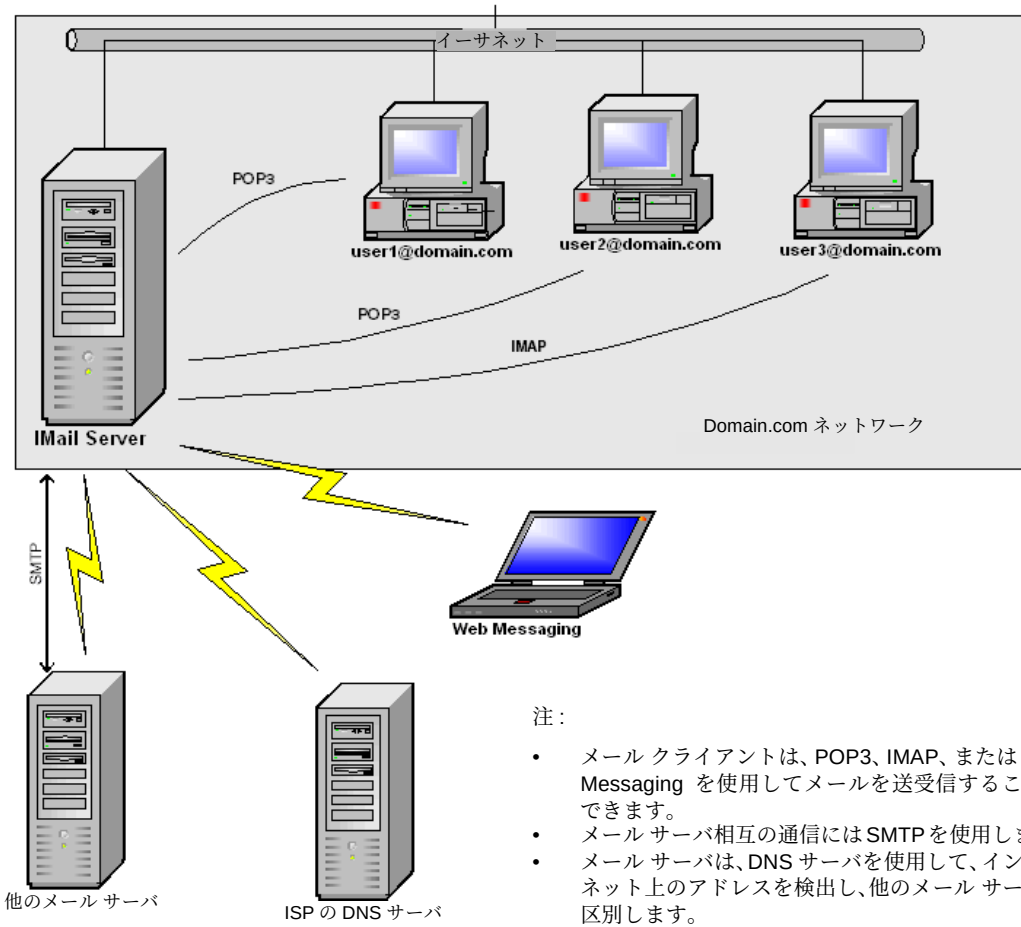
IMail Server は、インターネットを利用したメール システムを実装するために必要な以下の基本サービスを提供します (次ページの図で、これらのコンポーネントについて示します)。

- IMail Server は、***SMTP*** サーバを使用してインターネット上の他のメール サーバと通信します。
- 電子メール クライアントは、***POP3*** サーバを使用してメール サーバからメールを取り出します。
- 電子メール クライアントは、***IMAP*** サーバを使用してメール サーバにあるメールにアクセスすることもできます。

本書では、メール サーバの設定に絞って説明しますが、メール システムをインターネットに接続してユーザにメール機能を提供するには、以下のソフトウェア コンポーネントも必要になります。

- ***ドメイン ネーム システム*** (DNS) サーバ。DNS サーバをユーザのネットワーク上に配置することもできますが、インターネット サービス プロバイダのホスティング サービスを利用することも可能です。
- 各メール ユーザごとに、Microsoft 社の Outlook Express® や Qualcomm 社の Eudora® などの電子メール クライアントが必要です。

メールクライアントの代わりに、メール ユーザは IMail Server の ***Web Messaging*** を使用して、任意の Web ブラウザからメールの読み取りや送信を行うこともできます。



注 :

- メール クライアントは、POP3、IMAP、または Web Messaging を使用してメールを送受信することができます。
- メール サーバ相互の通信には SMTP を使用します。
- メール サーバは、DNS サーバを使用して、インターネット上のアドレスを検出し、他のメール サーバと区別します。

Windows ベースのアプリケーションやオペレーティング システムの知識があれば、IMail Server のインストールは、他の一般的なソフトウェア製品のインストールと同じくらい迅速かつ簡単に行うことができます。ただし、ユーザの環境で IMail Server の設定が正しく動作するように、インストール計画を立てることをお勧めします。

1:

メール サービスの性能と機能を最大限に引き出すため、
電子メール サーバとしてのみ動作するコンピュータを指定し、他のサーバプログラムといっしょに実行させないことをお勧めします。

システム要件は以下のとおりです。

- Intel (Pentium プロセッサ以上)
- Microsoft Windows 2000 または NT 4.0 以降 (Service Pack 6 搭載)

注記

IMail Serverには、Windows 95、Windows ME、Windows 98、またはWin32sとの互換性はありません。

操作性やセキュリティを高めるため、FAT ではなく
NTFS ファイル システムの使用をお勧めします。

- Microsoft 社の TCP/IP (Windows NT 用または Windows 2000 用) またはダイヤル アップ TCP/IP 接続を使用するためにインストールおよび構成されたネットワーク インターフェース カード。
- インターネットへの常時接続環境。

2:

一度にアクセスするアクティブなユーザの人数と、それをサポートするのに必要なハードウェア システムについて検討します。以下の表で、ユーザ数に応じたシステム要件について示します。

			ハード ドライブ スペース	
アクティブ ユーザ	**プロセッサ**	RAM	***POP***[1]	***IMAP***[2]
250 人以下	Pentium 100 MHz	64 MB	2 GB	6 GB
250 ～ 1,000 人	Pentium 200 MHz	128 MB	4 GB	12 GB
1,000 ～ 10,000 人	Pentium II 300 MHz	256 MB	8 GB	24 GB
10,000 ～ 100,000 人	Pentium II 400 MHz	512 MB	16 GB	48 GB
100,000 人以上	Dual Pentium II+	1 GB	32 GB+	96 GB+

1. POP はサーバからメールを取り出して、そのメールをサーバから削除します。

2. IMAP はサーバにメールを残します。

3: DNS

ご使用のメール サーバで必要な***ドメイン ネーム システム*** (DNS) の設定を確認します。DNS 項目を作成するには、その前に Windows TCP/IP 設定から以下の情報を入手する必要があります。

- **一次ホスト**　一次ホストは、IMail Server をインストールするシステムです。
- **一次ホストのホスト名**　ご使用の電子メール サーバのホスト名。（例 :*imailbox*）
- ***一次ホストの IP アドレス***　IP アドレスは、電子メール サーバのホストの数値アドレス（例 :*156.21.50.15*）です。
- ***ドメイン名***　ドメイン名 (例 :*domain.com*) は、ホストが存在するネットワークを識別するためのものです。

DNS でメール ホストを識別するには、ホスト名に加えてドメイン名を使用します。例えば、*imailbox.domain.com* にします。これは、完全修飾ドメイン名 (FQDN) とも言われます。

電子メールの送受信を正しく行うには、以下のレコードを DNS サーバに追加する必要があります。インターネット サービス プロバイダ (ISP) が DNS サーバのホストである場合は、ISP に連絡して適切なレコードを DNS サーバに追加してください。

- ***MX レコード***

  Mail eXchanger (MX) レコードは、ドメインのメールを処理するコンピュータを識別するために使用します。複数のドメインをホストする場合は、ドメインごとに MX レコードが必要です。MX レコードは、IMail Server (一次ホスト) の (完全修飾) ホスト名を指定します。

  例 :*domain.com* IN MX 10 *imailbox.domain.com*

- ***A レコード***

  IMail Server の Address (A) レコードは、IMail Server (一次ホスト) の IP アドレスに変換する場合に必要です。例えば、*imailbox.domain.com* は 156.21.50.15 に変換されます。

  PTR レコード

  *P*ointer (PTR) レコードは、逆引き参照で使用します。PTR レコードは、IMail Server (一次ホスト) の IP アドレスを IMail ドメインの正式ホスト名に変換する場合に必要です。例えば、156.21.50.15 in-addr.arpa. *host* は *imailbox.domain.com* に変換されます。

4:

一次ホストが使用するデータベースを識別し、ユーザの登録と認証を行います。一次ホストは、以下のいずれかのデータベースを使用してユーザの登録や認証を行います (登録は、ユーザのメール アカウントを作成するプロセスです。認証は、ユーザ ID とパスワードを検証するプロセスです)。

- **IMail データベース** メール アカウントのすべてのユーザ ID とパスワードが、Windows NT や 2000 のユーザ データベースまたはその他の外部データベースとは別に、Windows レジストリ内の独自のデータベースに保管されます。

  Windows NT や 2000 のユーザを IMail ユーザ データベースにインポートすることもできます。この場合、ユーザを Windows NT または 2000 のユーザ データベースにリンクする必要はありません。Windows NT または 2000 ユーザのインポートに関する詳細については、『*IMail Server ユーザーズ ガイド*』の「第 4 章 : NT ユーザのインポート」を参照してください。

- **Windows NT データベース** このデータベースは、ホスト マシンの Windows NT または Windows 2000 ユーザ データベースにリストされているユーザのメール アカウントを自動的に作成します。

  一次メール ホストは、ユーザ ネットワークの Windows NT または 2000 ユーザ データベースにアクセスする必要があります。

  Windows NT または 2000 ユーザ データベースに現在リストされているユーザを表示するには、Windows 文書の説明に従って適切な管理ツールを使用してください。

IMail Administrator を使用してユーザの追加や削除を行うことはできません。代わりに、該当する Windows 管理ツールを使用する必要があります (このツールは、Windows NT と Windows 2000 とでは異なります)。

注記

メールボックスや他のユーザ ファイルは、メール サーバがそのユーザのメッセージを受信するときか、メール クライアント経由で最初に IMail Server にアクセスするときに作成されます。

- **外部データベース** IMail Server は、外部データベースを使用して、ユーザの登録と認証を行うことができます。このオプションにより、既存の ODBC 対応ユーザ データベースを指定したり、IMail Administrator や外部データベースのユーザの追加や削除を行うことができます。IMail Server は、Microsoft SQL Server や Microsoft Access をサポートしています。

  外部データベースを使用する場合、Windows ODBC Data Source Administrator でデータベースの接続を設定します。IMail Server のインストールを始める前に、データベースの ODBC システム DSN 名と、データベースにログインするためのユーザ ID やパスワードが必要です。

注 :

- 外部データベースの接続の設定の詳細については、『*IMail Server ユーザーズ ガイド*』の「第 3 章 : 外部データベースのインターフェースの構成」を参照してください。
- 別の ODBC データベースを使用するには、IMail Server の ODBCUser.dll ファイルを変更します。詳細については、以下の URL にある知識データベースの ODBC に関するトピックを参照してください。

  http://support.ipswitch.com/kb

  トピックを表示するには、**[Search for]** ボックスに **ODBC** と入力し、プロダクト リストから *IMail Server* を選択して、**[Search]** をクリックします。
- ODBCUser.dll のソース コードは、以下の URL からダウンロードすることができます。

  ftp://ftp.ipswitch.com/Ipswitch/Product_Support/IMail/odbcuser7.zip

5:

基本的な SMTP サービスに加え、電子メール サーバで提供したい他のサービスを指定できます。例えば、以下のサービスを指定することができます。

- **サービスの監視方法 (IMail 監視サービス)**

  このサービスにより、メール管理者はすべての IMail サービス (SMTP、POP3、IMAP、Web Messaging) の状況を監視することができます。

- **Web Messaging**

  このサービスにより、Web ブラウザを使用してサーバからメールを読み取ったり、メールを送信することができます。

- **POP3**

  Qualcomm 社の Eudora Pro や Microsoft 社の Outlook などのクライアントを使用してメールを受信し、そのメールを自分の PC に格納することができます。

- **IMAP4 サービス**

  Qualcomm 社の Eudora Pro や Microsoft 社の Outlook などのクライアントを使用し、メールを読むことができます。通常、メールはメールサーバに保管されます。

注記

インストール中にもこれらのサービスを指定することが可能です。

6:

電子メール サーバの保全性を保つには、セキュリティ レベルやアクセス制御を指定する必要があります。IMail Server では、複数の方法で電子メール サーバを保護することができます。例えば、以下の方法です。

- SMTP Mail Relay Options

  電子メール中継オプションを使用すると、適切なセキュリティを設定して、メール サーバを使用できるユーザと使用できないユーザを判別することができます。IMail Server には、メール中継用の 5 つのオプションがあります。

注記

[No mail relay] や **[Relay mail for anyone]** というオプションは、インストール中に選択できます。
[Do not change my existing local mail relay settings] というオプションは、アップグレードの際に指定できます。インストール後に、IMail Administrator で [SMTP Security] タブの中継設定を変更できます。

- [Relay Mail For Anyone]

  このオプションは、最低のセキュリティ レベルです。あらゆる人がサーバを使用してあらゆる人にメールを送信できます (推奨しません)。

- [Relay For Local Hosts Only]

  このオプションは、" 差出人 " のアドレスに有効な IMail Server のホスト名が含まれているかどうかをチェックします。このオプションは最初のオプションよりは高いセキュリティ レベルですが、" 差出人 " アドレスを偽造されると、このセキュリティは役に立ちません。

- [Relay For Local Users Only]

  このオプションは、" 差出人 " のヘッダに有効なメールアドレス（ユーザ名@ホスト名）が含まれているかどうかをチェックします。[Relay For Local Hosts Only] オプションと同様、" 差出人 " ヘッダを偽造されると、このセキュリティは役に立ちません。

- [No Mail Relay]

  サーバは、他のホスト (IMail Server マシンに存在しないホスト) 宛てのメールの受け入れを拒否します。

- [Relay Mail For Addresses]

  このオプションを使用すると、指定した IP アドレスからメールを受信する場合にのみ、他のホスト宛てのメールをサーバが受け入れます。

メール中継オプションと他のセキュリティ機能の詳細については、『*IMail Server ユーザーズ ガイド*』の第 8 章を参照してください。

- SMTP 認証

  SMTP 認証を使用すると、ユーザのメール サーバを経由してメールを送信しようとする個々のユーザを検証することができます。
  SMTP 認証は、IMail Server で常時使用可能です。SMTP でログインするには、メール クライアントを設定する必要があります。
  例えば、Microsoft 社の Outlook Express では、**[このサーバは認証が必要]** オプションを選択します。

  SMTP 認証は、次のような場合に使用します。

  - **No Mail Relay** オプションを使用して SMTP を中継する場合。
  - **Relay for Addresses** オプションを使用する場合。SMTP 認証を使用すると、旅行中のため固定した IP アドレスを持たないユーザなど、リストしていない IP アドレスのユーザから送信されるメールを受け入れることができます。

- Secure Sockets Layer (***SSL***)

  SSL により、Web Messaging や Web Calendaring の通信でユーザ認証や暗号化を使用できます。

7: 1

1 つの IMail Server システムに複数のホストを作成し、各ホストが 1 つのドメインのメールを処理するように設定できます。この機能により、組織ごとに別々のメール サービスを提供することが可能です。

ホストは、一次ホストのインストールが終了した後に IMail Server に追加することができます。

追加したホストの設定方法やその他の拡張構成オプションの詳細については、『*IMail Server ユーザーズ ガイド*』の第 3 章を参照してください。

IMail Server

IMail Server をインストールするには、次の手順に従います。

1:

1 システム管理者として Windows NT や Windows 2000 にログオンするか、システム管理者権限を使用してアカウントにログオンします。

2. Windows レジストリのバックアップを取ります (*regedit.exe* を実行し、**[レジストリ]** メニューから **[レジストリファイルの取り込み]** を選択します)。

3. CD-ROM ドライブに CD-ROM を挿入します。
インストール プログラムが自動的に起動しない場合は、[スタート] メニューから **[ファイル名を指定して実行]** を選択し、
CD-ROM のドライブ パスの後に *install\setup.exe* と入力します。
(例 : *d:\install\setup.exe*)

インストール プログラムが起動します。

2:

最初のインストール画面 **(Official Host Name)** で、一次システムの正式ホスト名を確認 (または入力) するように促されます。これは、IMail Server のインストールにおける " 一次ホスト " です。



正式ホスト名がわからない場合は、
5 ページの「ステップ 3: メール サーバで使用する DNS 項目の作成」を参照してください。

必要に応じて、一次ホストのインストールが終了した後に、他の " 仮想ホスト " を追加することができます。

3:

次の画面 **(Database Options)** では、ユーザ データベース オプションを選択するように促されます。6 ページの「ステップ 4: ユーザ データベースの選択」を参照してください。



[External Database] を選択した場合、そのデータベースの ***ODBC*** **システム DSN** と、データベース サーバにログオンするためのユーザ ID とパスワードを指定する必要があります。IMail ODBC リンクが使用するデフォルト名は IMAILSECDB です。例えば、**システム DSN** の場合、`imailsecdb;UID=`*`imailuser`*`;PWD=`*`password`* と入力します。

4:

次の画面 (**Choose Destination Location**) では、IMail Server をインストールするディレクトリを入力します。インストール後にこのディレクトリを移動したり、名前を変更することはできません。また、パスやディレクトリにはスペースを含めることはできません。



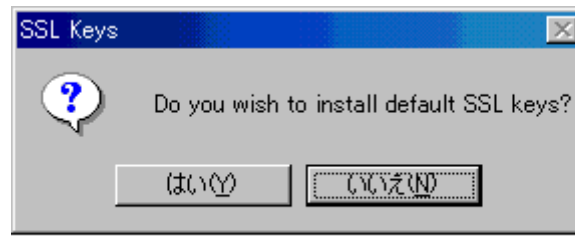
[Select Program Folder] 画面で、**[スタート]** メニューで IMail Server が表示されるプログラム グループを確認または入力します。



5:

続く 2 つの画面で、SSL キーをインストールするかどうか、およびどの SMTP セキュリティを設定するかを尋ねてきます。インストールの終了後に、IMail Administrator を使用してこれらの設定を変更することができます。『*IMail Server ユーザーズ ガイド*』の「第 6 章 : Web Messaging」と「第 8 章 : SMTP セキュリティ」を参照してください。

SSL は、Web Messaging にのみ適用されます。**[SSL Keys]** ダイアログボックスで、**[はい]** か **[いいえ]** のいずれかを選択します。



- 既にサード パーティ製の SSL 証明書を所有している場合は、**[いいえ]** をクリックします。IMail のインストール後に IMail SSL ユーティリティを実行するには、**[スタート]** メニューから **[プログラム]** → **[IMail Server]** → **[IMail SSL Configuration Utility]** を選択し、ヘルプに表示される指示に従います。
- サード パーティ製の SSL 証明書を所有していないか、" 自己署名型 " SSL 証明書を使用して IMail Web サーバを実行する場合は、**[はい]** をクリックします。
- 決定を下す前に SSL についてさらに詳しく知りたい場合は、**[いいえ]** をクリックします (デフォルト キーは後からでもインストールできます)。

[SMTP Security] 画面で、使用するメール中継オプションを選択できます。8 ページの「ステップ 6: セキュリティ レベルとアクセス制御の決定」を参照してください。この設定は、ユーザかスパムかを見分け、電子メールサーバを使用できる人とできない人を確定する上で重要です。

6: IMail

インストール プログラムにより、システムで実行されている IMail ***サービス***のリスト **(Service Start Options)** が表示されます (以前に IMail Server をインストールしたことがない場合、**IMail SMTP Server**、**IMail System Logger Service**、**IMail POP3 Server** が選択されています)。デフォルトで開始するようにしたい他のサービスを選択します。



注記

デフォルト サービスは、インストール後からでも指定できます。ただし、電子メールを送受信するには、少なくとも **[IMail SMTP Server]** ボックスだけはチェックする必要があります。

7:

[IMail Database] オプションを選択した場合は、**[Add User]** 画面が表示されます。ここでいくつかの " 代替 " ユーザを追加して、インストールをテストできるようにしておくことをお勧めします (ユーザは、インストール後からでも追加できます)。

8:

システムを再起動するように要求されることがありますが、これはファイルを適切に設定できていない場合に生じます。多くの場合、この問題はダイナミック リンク ライブラリ (DLL) が原因で生じます。IMail Server が正しく動作するようにするため、できるだけ早いうちに再起動してください。

IMail Server

このセクションでは、IMail Server の設定が動作していることを確認するためのクィック テストをいくつか取り上げます。

1: DNS

以下のツールのいずれかを使用して、IMail Server のインストールで使用する DNS 項目をチェックすることができます。

- 弊社 Web ページのダウンロードサイト（http://wwwcsoft.kgt.co.jp/library/index.html) から、WhatsUp Gold の体験版をダウンロードし、その一部の機能を使用します。
- Windows NT または 2000 オペレーティング システムでは "nslookup" コマンドを使用できます。

WhatsUp Gold を使用して DNS 設定をチェックするには、次の手順に従います。

1. **[スタート]** メニューから、**[プログラム]** → **[WhatsUp]** → **[WhatsUp Gold]** を選択し、WhatsUp Gold を起動後、（**[Tools]** → **[Net Tools]** →）**[Net tools]** 画面を開き、**[LookUp]** を選択します。
2. ドメイン名が正しいホスト名を指しているかを確認します。これを行うには、次のように入力します。
   - **Name or IP Address**

     ドメイン名を入力します (例 :*domain.com*)。
   - **DNS Server**

     使用するドメイン ネーム サーバのホスト名またはIPアドレスを入力するか、ドロップダウン リストから **[stack]** を選択してオペレーティング システムのネットワーク スタックを使用します。
   - **Query Type**

     リストから **[MX]** を選択します。

     [start] をクリックします。以下のような情報が表示されます。

   >domain.com

   10,imailbox.domain.com

3. ホスト名が正しい IP アドレスを指しているかどうか確認します。これを行うには、次のように入力します。

   - **Name or IP Address**

     IMail Server のホストの正式ホスト名を入力します

     (例 : *imailbox.domain.com*)。

   - **DNS Server**

     使用するドメイン ネーム サーバのホスト名または IP アドレスを入力するか、ドロップダウン リストから **[stack]** を選択して オペレーティング システムのネットワーク スタックを使用します。

   - **Query Type**

     リストから **[A]** を選択します。**[Start]** をクリックします。以下のような情報が表示されます。

```
>imailbox.domain.com
  156.21.50.10
```

4. IP アドレスが正しい正式ホスト名を指しているかどうか確認します。これを行うには、次のように入力します。

   - **Name or IP Address**

     IMail Server のホストの IP アドレスを入力します (例えば、*156.21.50.10*)。

   - **DNS Server**

     使用するドメイン ネーム サーバのホスト名またはIPアドレスを入力するか、ドロップダウン リストから **[stack]** を選択して オペレーティング システムのネットワーク スタックを使用します。

   - **Query Type**

     リストから *[PTR]* を選択します。

   [Start] をクリックします。以下のような情報が表示されます。

```
>10.50.21.156.in-addr.arpa.
     host = imailbox.domain.com.
```

5. エラーがある場合は DNS のエントリを修正して下さい。
   DNS サービスが ISP によりホストされている場合は、ISP に変更を依頼して下さい。

"nslookup" ツールを使用して DNS 設定をチェックするには、次の手順に従います。

1. Windows の "nslookup" コマンドを実行して **[MX record]** を表示し、ドメイン名が正しいホスト名を指しているかを確認します。例えば、以下のように入力します。

   ```
   nslookup
   >ls -t MX domain.com
   ```

   このコマンドは、以下のような情報を戻します。

   ```
   >domain     MX 10   imailbox.domain.com
   ```

2. Windows の "nslookup" コマンドで **[A record]** レコードを表示し、ホスト名が正しい IP アドレスを指しているかを確認します。

   ```
   nslookup
   >ls -t A imailbox.domain.com
   ```

   このコマンドは、以下のような情報を戻します。

   ```
   >imailbox.domain.com  A  156.21.50.10
   ```

3. Windows の "nslookup" コマンドで **[PTR Record]** を表示し、IP アドレスが正しい正式ホスト名を指しているかを確認します。

   ```
   nslookup
   >ls -t PTR 156.21.50.10
   ```

   このコマンドは、以下のような情報を戻します。

   ```
   >imailbox.domain.com  PTR  156.21.50.10
   ```

4. エラーがある場合は DNS のエントリを修正して下さい。
   DNS サービスが ISP によりホストされている場合は、ISP に変更を依頼して下さい。

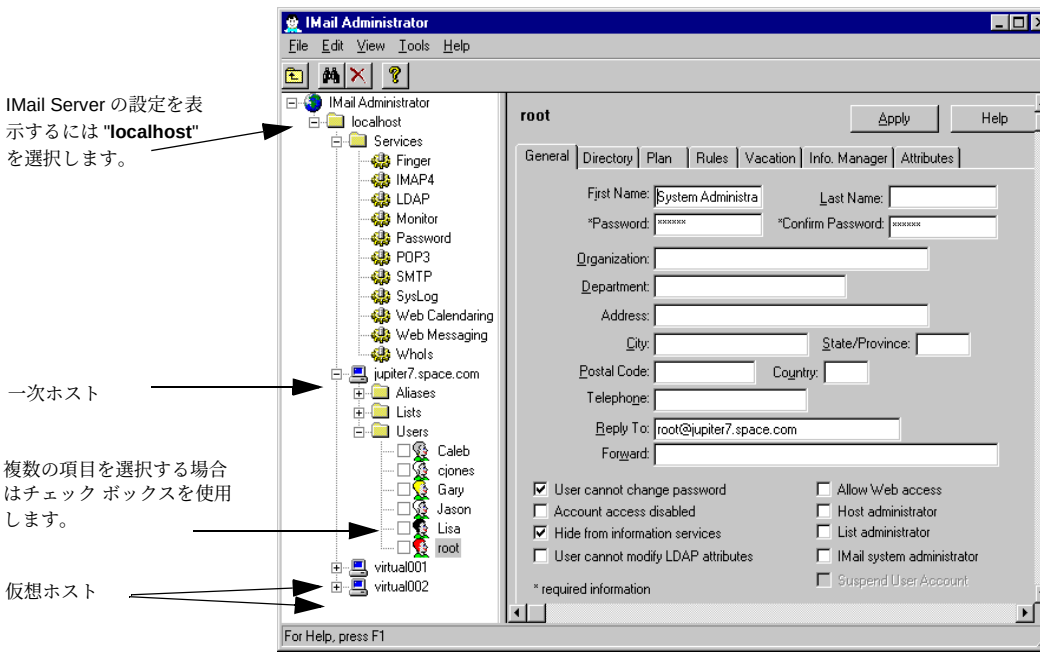
2: IMail Server

IMail Server のインストールを確認するには、次の手順に従います。

1. **[スタート]**メニューから、**[プログラム]**→**[IMail]**→**[IMail Administrator]** を選択します。

   [IMail Administrator] が表示されます。左側のパネルから、システムのデフォルト、サービス、一次ホスト、仮想ホストにアクセスすることができます。各ホストから、ユーザ、エイリアス、リスト サーバメーリング リストへアクセスできます。

左側のパネルにある項目を選択すると、右側のパネルにその項目のプロパティが表示されます。



2. [IMail Administrator] で **localhost** フォルダを展開し、一次ホストを選択します。右側のパネルに、**一次ホスト**の [General] のプロパティが表示されます。次の項目をチェックします。

   - **[Official Host Name]**

     一次システムの正式ホスト名。IMail は [Official Host Name] もしくは、[Host Aliases] に登録されたドメイン名のメールだけを受け取ることに注意してください。

   - **[Host Aliases]**

     [Official Host Name] 以外でメールを受け取りたい場合に設定します

IMail Server の構成の詳細については、『*IMail Server ユーザーズガイド*』の「第 3 章 : 構成」を参照してください。

3:

メールの送受信が可能かどうかを検証するには、一次ホストに最低でも 1 人のユーザが存在している必要があります。

一次ホストが IMail ユーザ データベースを使用している場合は、インストール中にユーザを作成した可能性があります。ユーザが作成されているかどうか確認するには、[IMail Administrator] の左側のパネルで **localhost** フォルダを展開し、**Users** フォルダを展開します。"root" ユーザしか表示されない場合は、次の手順に従ってテスト ユーザを追加します。

1. 一次ホストを選択して **[General]** タブをクリックします。
2. 右側のパネルで **[Add User]** をクリックします。3 ～ 30 文字の間でユーザ ID を指定します (ハイフンやスペースは使用不可)。ここでは、**[Show Advanced Settings]** はオフにしておきます。
3. **[Next]** → **[Finish]** を選択し、ユーザを追加します。このユーザ ID は、一次ホストの登録ユーザのリストに追加されます。ユーザのプロパティが、右側のパネルに表示されます。

一次ホストが Windows NT か Windows 2000 のユーザ データベースを使用する場合は、2 つのデフォルトのアカウント (管理者とゲスト) が必要です。テストのためにユーザを追加する必要がある場合は、適切な Windows 管理ツールを使用してアカウントを追加します。

一次ホストが外部データベースを使用していて、その外部データベースにユーザが登録されていない場合は、次の手順に従います。

1. [IMail Administrator] の左側のパネルで一次ホストを選択して、**[Users]** フォルダを展開します。
2. **"root"** ユーザを選択します。
3. **[General]** タブで、**[Account Access Disabled]** をオフにします。
4. 次に続くセクションで説明に従って、数人のユーザを追加します。

これで、追加したすべてのユーザが、Windows TCP/IP パラメータで指定したホスト名で IMail Server からメールを受信できます。例えば、ユーザ *elena* を追加し、そのホスト名が *emmitt.company1.com* の場合、このユーザは *elena@emmitt.company1.com* というアドレスのメールを受信できます (ホスト エイリアスの詳細については、前述の手順を参照してください)。

4:

テスト アカウントを使用してメールを送受信するには、次の手順に従います。

1. 電子メール サーバが稼働していることを確認します。確認するには、左側のパネルで **localhost** フォルダを展開し、**Services** フォルダを選択して、SMTP、POP3、および IMAP4 サーバが稼働しているかどうかを確認します。SMTP の状況が "running" になっているはずです。これは自動的に起動されます。

注記

POP3 と IMAP4 が "running" でない場合は、これらを起動する必要があります。

---

2. 電子メールクライアントを起動します。

   IMail Client (**[スタート]** → **[プログラム]** → **[IMail]** → **[IMail Client]**) を使用している場合、追加したユーザはドロップダウン リストに表示されます。作成したユーザ アカウントのいずれかを使用してログオンし、他のユーザにメールを送信します。その後、そのメールが 2 番目のユーザの*メイン* メールボックスに表示されるかどうか確認します。

3. 次に、テスト メッセージを送信して、リモート システムへのメール サービスをテストする必要があります。これを行うには、インターネットに接続している場合は、*imailtest@ipswitch.com* にメールを送信します。弊社がメールに返信します。また、別のホストのユーザにメールを送信して、返信を依頼することによりテストすることも可能です。

4. メール サーバが正常に動作していることが確認できれば、さらにホストやユーザを追加することができます。

IMail Administrator には、情報を入力する上で役に立ついくつかのウィザードがあります。例えば、新規ユーザ ウィザードは、新しいユーザのアカウントを作成するときに使用します。ウィザードをオンにすると、以下を実行する際にウィザードが起動します。

- ホストの追加
- ユーザの追加
- エイリアスの追加
- リストの追加

ウィザードをオンにするには、[Tools] メニューから **[Use Wizards]** を選択します。ウィザードをオフにするには、[Use Wizards] を再度選択します。

Web

Ipswitch 製品についてのさらに詳しい情報の参照、またはオンラインでの製品の購入には、弊社の Web サイト (*http://wwwcsoft.kgt.co.jp*) をご利用ください。

技術サポート ページでは、よく尋ねられる質問（FAQ）や最新の技術情報をご覧になることが出来ます。

無償サポート期間はユーザ登録日または初回サポート日から 90 日間となっており、FAX・電子メールで受け付けております。なお、宛先（FAX・e-mail）はパッケージ内の「テクニカルサポートについて」、「お客様登録カード」でご確認ください。

また、別途有償サポートメニューをご用意しております。
詳細については、以下の URL をご参照ください。

http://wwwcsoft.kgt.co.jp/information/support/index.html

現在出荷中のバージョンのソフトウェア パッチ又はアップグレード版が公開された場合、登録ユーザ様には、サポートセンタより別途メール（又は FAX）にてご連絡いたします。

各モジュールについてのお問合せは、カスタマ・サポートセンターをご利用ください。（カスタマサポートセンターについては、登録ハガキをご参照ください。）

用語集

A

"A" レコードは、ホスト名を IP アドレスに対応させます。

Finger

Finger プロトコルは、インターネットの標準言語の 1 つであり、これを使用してリモート ユーザは、システムに登録されているユーザについての情報を知ることができます。この情報には、ユーザが最後にメールを読んだ時間、ユーザが提供している "Plan" ファイルが含まれています。このファイルには、Finger の要求に応じてユーザが提供する追加情報が含まれています。

IMAP4 (Internet Message Access Protocol Version 4)

メール サーバからメールを読み出すためのプロトコルで、サーバ側でメールの保存管理が行えます。この方法によって、クライアント電子メール アプリケーションは、リモート マシン上にあるメッセージの格納場所がローカル マシン上にあるかのようにアクセスすることができます。

in-addr.arpa

インターネット上の特別なドメインで、IP アドレスをドメイン名に対応させるときに使用されます。このドメインは、逆引き参照のために使用されます。逆引き参照は、IP アドレスがわかっているときに、アプリケーションがホスト名の問い合わせをする場合に使用されます。

IP

インターネット上のすべてのホストは、IP アドレスと呼ばれる一意の数字コードによって識別されます。"156.21.50.1" といったものが、IP アドレスの一例です。ドメイン ネーム システムは、IP アドレスをホスト名に対応させるために使用されます。

IP (Internet Protocol :)

このプロトコルにより、パケット (データ束) がその宛先を見つけるために、ネットワーク間を移動する方法が決定されます。「**TCP**」を併せて参照してください。

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)

サーバ上に格納されているディレクトリ情報にアクセスするためのプロトコル。LDAP が使用可能なクライアントは、LDAP ディレクトリに格納されているユーザ情報を検索し、表示することができます。

MX

MX レコードは、メール サーバを実行しているコンピュータ (この場合は、IMail Server コンピュータ) のホスト名を識別します。

ODBC (Open DataBase Connectivity)

標準のデータベース アクセス プロトコルで、データベース管理システム (DBMS) が扱うデータの種類に関わらず、どのアプリケーションからでもデータにアクセスすることができます。ODBC は、アプリケーションと ODMS の間にデータベース ドライバと呼ばれるレイヤを挿入します。このレイヤが、アプリケーションのデータ クエリを DBMS が理解できるコマンドに変換します。

POP3 (Post Office Protocol Version 3)

ユーザ宛てのメッセージを取り出すために、メール サーバ (またはポスト オフィス) と通信する際に使用される、最も一般的なプロトコル。POP3 サーバは、いつでも着信メールを受信できるので、個々のユーザが自分の PC の電源を入れたままにしておく必要はありません。ユーザが POP3 サーバに接続し、メッセージをダウンロードするまで、POP3 サーバはメールを保存します。

PTR

PTR レコードは、IP アドレスをホスト名に対応させ、逆引き参照で使用します。

SMTP (Simple Mail Transfer Protocol)

SMTP は、インターネットも含め、複数の TCP/IP ネットワーク上で効率的に、かつ確実にメールを配送できるよう設計されています。SMTP は、メール システム間のやりとりを定義して、メール システムが異なる種類のコンピュータ上にある場合や、異なるオペレーティング システムを実行している場合でも、電子メールの転送を簡単に行えるようにします。SMTP は、インターネット上でメールを送受信するために必要なプロトコルです。

SSL (Secure Sockets Layer)

ブラウザとサーバの通信に使用されます。SSL は、メール通信を暗号化して、指定した受信者だけが読むことができるようにします。SSL は、クライアントとサーバを認証するために " 証明書 " を使用します。また、通信の暗号化や復号化を行うために公開 / 秘密鍵の " ペア " を使用します。主要なブラウザでは SSL を使用することが可能です。

TCP (Transmission Control Protocol :)

パケットでのデータ組立ておよび分解方法を制御するプロトコル。「**IP**」を合わせて参照してください。

Web Messaging

ブラウザ ベースのアプリケーションで、ユーザには
電子メール クライアントの機能を、管理者にはメール サーバの管理機能にリモート アクセスする機能をそれぞれ提供します。

Whois

インターネットの標準プロトコルの 1 つで、これを使用して
リモート ユーザは、ユーザのメール アドレスを調べることができます。

Host Aliases

ホスト名に割り当てられている別名。ホスト名 (および、それに続くドメイン名) の代わりに使用できます。便宜上、エイリアスは、長いホスト名を短縮するために使われます。

クライアント プログラムが、特定の IP アドレスのホスト名を要求したときに、DNS サーバが逆引き参照を行います。逆引き参照は、通常の DNS 参照手順の逆で、IP アドレスから特定のホスト名を検索します。
逆引き参照には、IP アドレスをドメイン名に対応させる特別なドメイン **"in-addr.arpa"** が使用されます。

ネットワーク接続されたコンピュータ上で実行されるプログラム。通常、ネットワーク接続された他のコンピュータ上で実行されている**サーバ** プログラムにサービスを要求します。クライアントは、プロトコルを使用してサーバと通信します。例えば、メール クライアントは、POP3 または IMAP4 プロトコルを使用してメール サーバと通信します。

ゲート ホストとは、メールを宛先のホストに直接送信できない場合に、使用されるホスト名です。

ネットワーク接続されたコンピュータ上で実行されるプログラム。通常、他のネットワーク接続されたコンピュータ上で実行されている**クライアント** プログラムから送られてくるサービス要求を処理します。
クライアントとサーバは、プロトコルを使用して通信します。例えば、FTP クライアントは、FTP プロトコルを使用して FTP サーバと通信します。

レジストリ データベースにインストールされている実行可能オブジェクトを表す、正式な Windows NT 用語。このレジストリ データベースは、NT のサービス コントロール マネージャによって保守されます。サービスは、システムがブートされたとき、自動的に起動されるプログラムで、システムがシャットダウン (停止) するまで動作し続けます。
また、システムに誰もログオンしていないときでも、動作し続けます。

何千もの人に必要のないメールを送信することを " スパミング " といいます。スパム メーラは他人のシステムを使用して、自分のメッセージを他のインターネット メール ユーザに中継するので、貴重なシステム リソースが占有されます。IMail Server では、アンチ スパミング機能が提供されています。

インターネット ネットワークの区分けを表すときに使用される用語。
ドメインは、利用しているネットワークがどの一部となっているかという主要な区分け (例えば、.com、.edu、.gov、.net、.us、.uk) の意味や、自分が使用しているネットワーク上の部分 (例えば、ipswitch.com) を指すこともあります。「**ドメイン ネーム システム**」も併せて参照してください。

ホスト名と IP アドレスのテーブルを保持しているホストであり、クライアント プログラムのために参照サービスを提供しています。クライアント プログラムは、ドメイン ネーム サーバを使用して、特定のホストの IP アドレスを参照します。ドメイン ネーム サーバは、ローカル ネットワークに対し、ホスト名から IP アドレスへのマッピングを提供し、他のドメイン内にあるホストを参照するために、ドメイン ネーム システムへのアクセスを提供しています。

一次ネーム サーバのデータベース ファイルには、ドメインに関するすべての情報が保持されています。一次サーバのバックアップや負荷分散のために、2 つ目のネーム サーバを追加する場合は、そのサーバを*二次*サーバとしてセットアップすることができます。二次ネーム サーバは、そのドメインの一次ネーム サーバからデータベース ファイルをコピーする

ことで、そのドメイン情報を取得します。二次サーバを使用する利点は、1 台のネーム サーバ (一次サーバ) だけでドメイン情報を保守できることです。

(DNS)

ホスト名 (例えば、tortoise.ipswitch.com) を IP アドレス (例えば、156.21.50.10) に変換する分散型データベース システム。インターネット上のすべてのホストには、ドメイン ネーム システムで指定されている規約に従って名前が付けられています。ホスト名が使用されるのは、数字のアドレス (IP アドレス) よりも覚えやすいためです。例えば、"tortoise.ipswitch.com" の場合は、"tortoise" がホスト名、"ipswitch.com" がドメイン名です。ドメインは、ホストが存在するネットワークを意味しています。

「**ドメイン ネーム サーバ**」を参照してください。

「ドメイン」と同じ意味です。

コンピュータが情報交換を行う際の方法を定義している一連のルール。

「**リスト サーバ**」を参照してください。

リスト サーバは、メーリング リストを管理する方法を自動化します。リスト サーバが受信したメーリング リスト宛てのメッセージは、そのメーリング リストの全メンバに送信されます。

リスト サーバは、すべての登録済みユーザにメッセージを配布するだけでなく、登録者リストに対するユーザの追加や削除を管理します。ユーザは、リスト サーバに登録要求のメールを送信すると、リストに登録されます。これによって、自動的にリストに追加されます。

索引

A

A レコード 23
    表示 17

D

DNS 項目 5
    A レコード 6
    MX レコード 6
    PTR レコード 6
    確認 16
DNS サーバ 2

I

IMail Administrator 19
    ウィザードの使用 22
Imail ユーザ データベース 6
Ipswitch 社の Web サイト 1, 22
IP アドレス 5

M

MX レコード 23
    表示 16

N

nslookup 16
NTFS 2, 4

O

ODBC データベース 7

P

PTR レコード
    表示 17

S

SMTP 認証 10
SSL 14

W

WhatsUp Gold 16
Windows ユーザ データベース 6

あ

新しい機能 2
アップグレード 22

い

インストール 11
    計画 4
    テスト 16
    場所の選択 13

う

ウィザード、IMail Administrator 22

え

エイリアス 19

か

外部ユーザ データベース 7

き

技術サポート 1, 22

く

クライアント
    電子メール 2

け

ゲート ホスト 25
検索 16

さ

サービス
    選択 15
サービス、メール 8

し

システム要件 4

す

スパミング
    セキュリティを参照 14

せ

正式ホスト名 11
セキュリティ 8, 10
    SSL 14
    設定 14

そ

ソフトウェア パッチ 22

ち

知識ベース 1
中継オプション 8

て

データベース
    IMail 6
    Windows 6
    外部 7
    設定の確認 20
    選択する 12
データベース、ユーザ 6
テスト
    メールの送受信 21
電子メール クライアント 2

と

ドメイン名 5

に

認証、SMTP 10

は

バージョン 7 の新機能 2

ほ

ホスト
    一次 5
    正式名 11
    複数の 10
ホスト エイリアス 19

め

メール クライアント 3
メール ゲートウェイ 25
    メールの送信 25

メール サーバ
DNS 項目 5
インストール 11
サービス 8
セキュリティ 8
セキュリティの設定 14
テスト 16
ユーザ数 5
メール サービス
選択 15
メール システム
コンポーネント 2

ゆ

ユーザ データベース
設定の確認 20
ユーザの追加 21

よ

要件 4